

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號一第 卷一十第

論 說

植民地の財政政策に就きて(一)……………法學博士 山本美越乃
 租税の限度に就きて(二)……………法學博士 神戶 正雄
 勞賃の經濟的及び道德的性質(三)……………法學博士 田島 錦治
 鎌倉時代の家族制度(六)……………文學博士 三浦 周行

時事問題

極東緩衝國建設の企圖……………法學博士 戸田 海市
 所得税の改正を論ず……………法學博士 小川郷太郎
 北米合衆國の排外的海運政策と我海運……………法學士 小島昌太郎

雜 錄

所得税に就て武藤氏に答ふ……………法學士 沙見 三郎
 米と社會政策(新著紹介)……………法學士 本庄榮治郎

附 錄

本誌第一卷乃至第十卷論題索引……………法學士 本庄榮治郎

新著紹介

●米と社會政策

ラビット氏原著
覽文館發行定價貳圓五拾錢

本書は前駐日米國大使館戰時通商局商務官セー・エー・ラビット氏が著はされたものを、東京朝日新聞記者の宇野木忠氏が譯せられたものである。本書二百頁の中、四分の三は「表面に現はれたる事實」の題下に大正七年一月から八年二月に至るまでの米に關する種々の事實が網羅されてゐる。その多くは新聞雜誌等の抜萃であつて多少雜駁たるを免れぬ。次に「問題の解説」として、米問題を部分的に解剖して、一般的經濟問題、農業的問題、財政的問題、運輸問題、市場問題、法制問題、食糧價格問題、社會問題、酒問題、植民地の開發と米の供給、公開主義、食料管理問題等に亘つて説明を加へ、最後に「問題の解決方法」に及び、その冒頭に「日本に於ては此主要問題に關し繼續的に學術的努力をなすの士少きを以て著者は茲に何等かの解決案を提出するを避け得ざるに至」つた旨を説かれてゐるが、その解決方法としては、要するに、食料管理局を組織し以て食料問題を徹底的に研究するの必要と、食料調理方法、代用食物研究と朝鮮農業の開發とを擧げてゐるに過ぎぬ。それは兎に角、外人によつて此の如き著述が試みられたといふことは特筆すべきことであり、又我が食料問題の研究上、有益な著述であることは勿論である。(ほ)